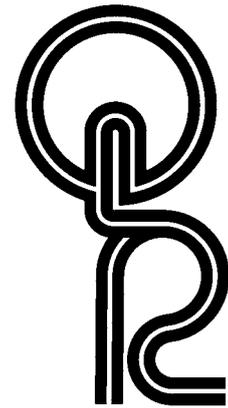


# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 16 No.3, 2009



ブルガリア第2の高峰 Vihren 山山頂 (2,914 m) からピリン山地の主脈を望む。標高 2,600 ~ 2,700 m の峰が連なるピリン山地では圈谷や浅く広い氷食谷がみられ、氷河湖も多い。写真奥の谷頭部は雪田を溜める上段の圈谷と、氷河湖をもつ下段の圈谷とに分かれる。また写真手前の圈谷には堆石と羊群岩が分布する。アルプス的な景観のほか、絶滅危惧種を含む豊富な動植物がみられることで、ピリン山地一帯は世界自然遺産に登録されている。(佐々木明彦撮影)

---

---

Vol. 16 No. 3

June 1, 2009

2009年大会案内(第3報).....2	会員消息.....9
学会賞・学術賞記念講演会および シンポジウム案内.....5	文部科学大臣表彰若手科学者賞.....9
幹事会議事録.....6	AsQUA 国際会議案内.....10
選挙管理委員会議事録.....7	Sir Nicholas Shackleton Medal 候補者募集.....16
学生会員継続届.....8	

---

---

## ◆日本第四紀学会 2009年大会案内（第3報）

### 大会の概要

日本第四紀学会 2009年大会は以下の予定で開催されますので、多数の皆さんのご参加をお願いいたします。

#### 1. 日時・開催場所：2009年8月28日（金）～8月30日（日）

滋賀県立琵琶湖博物館（滋賀県草津市下物町 1091） <http://www.lbm.go.jp/>

#### 2. 日程

- 8月28日 一般研究発表（口頭及びポスター）・評議員会
- 8月29日 一般研究発表（口頭及びポスター）・総会・懇親会
- 8月30日 午前：シンポジウム、午後：普及講演会
- 8月31日 巡検（日帰り）

#### 3. 発表の申し込み締め切り

前号でお知らせしましたとおり、一般研究発表（口頭およびポスター）の申し込み締め切りは2009年6月11日（木）となっています。前号の＜研究発表の申し込み＞を参照の上、講演要旨原稿と共に期限までにお申し込みください。

#### 4. 参加費・懇親会申し込み等

○大会参加費として、会員・非会員を問わず2,000円を申し受けます。当日会場の受付にてお支払いください。ただし、70歳以上の会員と学部学生、シンポジウム依頼講演者は無料です。

○講演要旨集は、会場で直接販売いたします。

○懇親会に参加される方は、人数を把握するために、予約の申し込みをお願いします。

参加費：一般 5,000円（予約）、（当日は6,000円）、学生 2,500円

予 約：7月10日（金）までに、電子メールまたは Fax で大会実行委員会事務局（里口）までご連絡ください。

E-mail: yonki09(at)lbm.go.jp (yonki のあとはゼロです。lbm は小文字のエル・ビー・エム)

Fax : 077-568-4850 (里口保文 宛と明記してください)

#### シンポジウム・巡検・普及講演会

#### 5. シンポジウム「古環境変動へ貢献する湖沼堆積物研究の役割」

日時：2009年8月30日（日）9時～12時30分

場所：琵琶湖博物館ホール

世話人：里口保文・高橋啓一・竹村恵二・高原 光・井内美郎

#### 9:00-9:05 趣旨説明

S1 9:05-9:30 環境変動解明への湖沼堆積物研究の役割（仮題）  
井内美郎（早稲田大）

S2 9:30-9:55 湖沼堆積物の百万年スケール層序と編年（仮題）  
里口保文（琵琶湖博）

S3 9:55-10:05 【コメント】放射年代測定による編年の現状と課題（仮題）  
壇原 徹（京都 FT）

S4 10:05-10:30 琵琶湖堆積物に基づいた更新世後期の古気候復元—花粉からの事例（仮題）  
奥田昌明（千葉中央博）

S5 10:30-10:40 【コメント】湖底堆積物コア中の無機元素組成の垂直分布（仮題）  
豊田和弘（北大）

休憩（10:40-10:50）

S6 10:50-11:15 湖沼堆積物における古環境指標としての珪藻化石—現状と課題—  
齋藤めぐみ・林 辰弥（国立科学博物館・地学研究部）

- S7 11:15-11:40 湖沼堆積物に記録された後氷期の人間活動の痕跡～特に微粒炭に着目して～ 井上 淳 (大阪市大)
- S8 11:40-11:50 【コメント】古環境変動と人間活動や生態系の関係解明にむけて (仮題)  
高原 光 (京都府立大)
- 11:50-12:30 総合討論 (司会：竹村恵二・公文富士夫)

#### 6. 巡検「琵琶湖西岸地域の地形・地質、そしてその影響」

琵琶湖の西側に形成された中部更新統の古琵琶湖層群を中心に、佐川～栗原火山灰を挟む堅田層や、従来は古琵琶湖層群最上部と考えられていた湖西北部の堅田累層相当層 (高島層) を見学し、堅田湖形成期の堆積環境を考えます。また、堅田断層で形成された地形や歴史時代の地震による崩壊地形など自然災害が及ぼした人間活動への影響もあわせて、湖西地域における第四紀の活動記録を包括的に観察します。

巡検は、8月31日(月)に行う日帰り巡検です。申し込み締め切りは7月10日(金)です。ただし、定員に達し次第、受付終了とさせていただきますので、早めにお申し込みください。

日 程：2009年8月31日(月) 日帰り

案内者：山川千代美・里口保文・小松原 琢・高橋啓一・宮本真二

内容概要とスケジュール：

- 8月31日(月) 8:30 JR 琵琶湖線草津駅西口 ホテルポストンプラザ草津前集合  
バスにて琵琶湖大橋経由 湖西地域へ
- ・本堅田 (堅田断層で形成された地形の見学)
  - ・堅田～伊香立丘陵 (佐川～栗原火山灰を挟む地層、伊香立公園の露頭観察)
  - ・葛川町居 (歴史時代の地震による崩壊地形の見学)
  - ・朽木・高島市長尾 (高島層・安曇川河床部の堅田層相当層の地層観察)

17:00 JR 湖西線堅田駅解散

天候および交通事情等により若干の変更もあります。

募集人員：30名 (中型バス使用) 15名未満の場合は中止

参加費：4,000円 (バス代、昼食代、資料代等を含む)

\*人数によってはバス代が若干変更になる可能性があります。

申し込み方法：参加希望者は、ハガキまたは e-mail にて、氏名・所属・連絡先 (住所・電話・メールアドレス)・定員オーバーの場合のキャンセル待ち希望の有無を明記し、下記の宛先まで申し込んでください。

申し込み先：〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 琵琶湖博物館

第四紀学会巡検係 山川千代美 あて

e-mail: yonki09(at)lbn.go.jp (yonki の後はゼロ。lbn: Lake Biwa Museum の略)

#### 留意事項

- ・先着順に受け付けます。なお、電話やFAXでの申し込みは受け付けません。
  - ・受付後に個別に案内等を送付します。
  - ・参加の確認と参加費の徴収および巡検資料の受け渡しは、学会期間中に巡検コーナーを設けて行う予定です。
  - ・巡検のみ参加される方は、申し込み時にその旨をお書き添えください。
- 申し込み締め切り：7月10日(金) 17時。  
ただし、定員に達し次第、受付終了とさせていただきます。

#### 7. 普及講演会「琵琶湖堆積物がつむぐ過去から未来へのメッセージ」

この普及講演会は、一般市民を対象として、日本第四紀学会・滋賀県立琵琶湖博物館の共催で行います。また、内容は当日午前中に行うシンポジウムと関連づけて行うので、シンポジウムの講演とあわせてご参加ください。

日時：2009年8月30日(日) 14時～16時40分

場所：琵琶湖博物館 ホール

世話人：里口保文・高橋啓一・竹村恵二・高原 光・井内美郎

13:30～14:00 受付

14:00～14:10 開会挨拶

- 14:10～15:10 「過去100万年間の琵琶湖堆積物に残された汎地球規模変動の記録」  
竹村恵二（京都大・地熱研）
- 15:10～15:20 休憩
- 15:20～16:20 「琵琶湖と周辺湿地堆積物から読み解く植生と人間活動の移り変わり」  
高原 光（京都府大）
- 16:20～16:30 質問受付など
- 16:30～16:40 閉会挨拶

8. 申し込み締め切りなどの日程

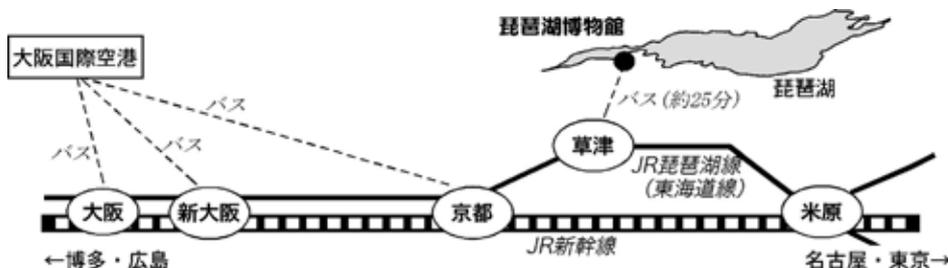
- 発表の申し込み締め切り：2009年6月11日（木）、行事担当幹事へ郵送  
（シンポジウムの依頼講演者は講演要旨の締め切り日です。）
- 懇親会の予約締め切り：2009年7月10日（金）、大会事務局（yonki09(at)lbm.go.jp）
- 巡検申し込み締め切り：2009年7月10日（金）、大会事務局（yonki09(at)lbm.go.jp）

9. 大会実行委員会

- 実行委員会委員長 高橋啓一  
連絡先：実行委員会事務局長 里口保文  
〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 琵琶湖博物館  
E-mail: yonki09(at)lbm.go.jp (yonkiの後はゼロ。lbmはエルビーエム。)  
Tel: 077-568-4828 Fax: 077-568-4850

○琵琶湖博物館へのアクセス

- JR琵琶湖線「草津」駅下車。  
→「草津」駅西口から、近江鉄道バス・烏丸下物線「烏丸(からすま)半島行き」乗車、  
→「琵琶湖博物館」下車（ほぼ終点です。バス所要時間約25分）。



自動車で来られる方は、琵琶湖博物館がある烏丸半島の一般駐車場に駐車してください。

○琵琶湖博物館周辺地図

- JR「草津」駅西口からでている近江鉄道バス「烏丸半島」行きに乗ると、「琵琶湖博物館」のバス停をおりてすぐです。琵琶湖博物館の開館時間前から学会大会がはじまる予定ですので、出入りは大会専用の出入り口からお願いします。琵琶湖博物館の周りには、お店などほぼありません。



## ○宿泊

草津周辺には、いくつかホテルがありますので、紹介します。宿泊の予約は各自でおこなってください。インターネットで探せば、ここにあげたほか、周辺の駅前にもあります。参考にしてください。

駅	名称	電話	備考
草津駅	アーバンホテル (草津市大路1丁目4-31)	077-567-0606	5,000～7,000円程度。 草津駅東口から徒歩約5分。
	クサツエストピアホテル	077-566-3333	10,000円程度。 草津駅西口徒歩約3分。
	草津第一ホテル (草津市若竹町5-5)	077-562-2411	6,000円程度。 草津駅東口から徒歩約12分。
	ホテルポストンプラザ草津 (草津市西大路町1-27)	077-561-3311	8,000～9,000円程度。 草津駅西口すぐ。
	ビジネスホテルひばり (草津市若竹町8-4)	077-562-0618	草津駅東口から徒歩約6分。
	ホテル21 (草津市若竹町7-10 KB211F)	077-564-2121	7,000円程度。 草津駅東口から徒歩約7分。
瀬田駅	瀬田アーバンホテル	077-543-6111	6,800円～。瀬田駅前すぐ。
	ホテルクオリティワン瀬田	077-543-2511	5,500円～。瀬田駅前すぐ。
守山駅	ホテル近江守山	077-582-0220	5,700円～。守山駅前すぐ。
	守山アートホテル	077-581-1700	5,500円～。 守山駅から少し離れています。

## ◆ 2008年度学会賞・学術賞受賞者講演会（第2回）およびシンポジウムのお知らせ

日本第四紀学会では、第四紀学の発展に貢献し顕著な業績をあげ、また学会活動に貢献した会員に授与される「学会賞」、第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた会員に授与される「学術賞」を新しく設け、2008年大会において最初の受賞者を決定しました。

受賞者による第2回受賞記念講演会を下記のとおり開催します。非会員の方のご来場も歓迎します。

また同日午後には同じ会場にて日本第四紀学会主催のシンポジウム「地球温暖化と環境防災」が開催されます。あわせてご参加ください。

お問合せ：水野清秀 [産総研] (fax: 029-861-3653 ; k4-mizuno(at)aist.go.jp)

2009年6月27日 [土] 13:00～14:30

日本大学文理学部 100周年記念国際会議場

東京都世田谷区桜上水3-25-40 京王線 下高井戸駅 徒歩10分

- ・13:00～13:05 町田 洋会長 あいさつ
- ・13:05～13:45 松島義章氏 (学会賞受賞者)  
「完新世における温暖種が示す対馬海流の動向」
- ・13:45～14:25 横山祐典氏 (学術賞受賞者)  
「南北氷床のふるまいと海水準—最終氷期の気候変動との関係—」

松島義章氏ご紹介：横浜国立大学学芸学部地学科卒。理学博士。相模湾・東京湾を中心に九州から北海道までの沿岸低地に分布する海成沖積層中の貝化石の群集解析を行う。それを用いて約1万年前から以降の、海面上昇による日本列島沿岸の沖積低地の古環境変遷と復元を進めてきた。神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員。放送大学大学院客員教授。

横山祐典氏ご紹介：東京大学海洋研究所・理学系研究科地球惑星科学専攻准教授。オーストラリア国立大学地球科学研究所博士課程修了。PhD。カリフォルニア大学バークレー校宇宙科学研究所等の研究員を歴任。第四紀後期の海水準変動を中心に固体地球と氷床－海洋変動に伴う気候変動などを研究する。研究試料は海洋・湖沼堆積物や氷床コア、サンゴなど多様。国際第四紀学会海洋・沿岸プロセス研究委員会（INQUA CMP）副委員長。日本学術会議 PAGES 委員会委員。

同日開催 日本第四紀学会 シンポジウム [地球温暖化と環境防災]

日 時：6月27日（土）14:30～17:30  
場 所：日本大学文理学部 100 周年記念国際会議場

### プログラム

- ・開会の辞及び趣旨説明  
陶野郁雄（“地球温暖化問題”を検討する研究委員会研究代表者）
- <前半 地球温暖化による海と海岸環境の脆弱化>
- ・基調講演 斎藤文紀（産業技術総合研究所）：「アジアのメガデルタ：海面上昇に支配されたデルタの成立と近年の環境変化」
- ・コメント 村上正吾（国立環境研究所）：「気候変動による東アジアの流域圏水環境の変化」  
藤田士郎（国土交通省河川局）：「地球温暖化に伴い増大する水災害リスク」  
中村裕昭（地域環境研究所）：「地盤沈下と高潮水害の脅威 ー国内外の事例からー」
- <後半 地球温暖化による気象気候の変化>
- ・基調講演 山川修治（日本大学）：「地球温暖化渦中における異常気象と天候異変：2007年北極海海氷の記録的縮小を中心に」
- ・コメント 吉田 隆（気象庁）：「地球温暖化と日本の気候」  
加藤央之（日本大学）：「地球温暖化と気象要素の極値発現」
- ・総合討論 座長 陶野郁雄
- ・閉会の辞 遠藤邦彦（日本第四紀学会副会長）

## ◆日本第四紀学会第6回幹事会議事録

日時：2009年3月20日（土）、13:00～16:30  
場所：日本大学文理学部8号館1階 レクチャーホール  
出席者：遠藤副会長、水野、百原、吾妻、荻谷（記録）、奥村（オブザーバ）、中野（事務局）

### 1. 報告事項

#### (1) 庶務

- 1) 会員消息が報告された（入会3、異動9、退会6、逝去退会1）。
- 2) 第1回選挙管理委員会で配布予定の資料の確認が行われた（委員名簿、日程、会費滞納者の扱い、被選挙人名簿、会員宛の送付文書（案））。会員向け文書については評議員の業務内容を追記することとした（担当：庶務幹事）。
- 3) 学会への郵送物・連絡物及び著作物使用許諾申請の状況が報告された（計13件）。

#### (2) 渉外

- 1) 地球惑星科学連合整備委員会において、連合

大会時に学会展示コーナーを設ける案が出たが、その後連絡がなく今後調整することが報告された。  
2) 連合大会「第四紀」セッションはポスター：5月20日、口頭：5月21日となった。ハイライト論文は推薦なし。共同提案ユニオンセッション「古環境と将来予測」：5月18日。次年度以降の古環境・古気候関連セッションと「第四紀」セッションとの関係について今後幹事会で議論することが報告された。

#### (3) 編集

- 1) 第四紀研究第48巻2号の編集状況が報告された（論説2、総説1、資料1）。
- 2) 原稿状況が報告された（3月20日現在：受理済論文4、書評2。手持原稿20）。
- 3) 第48巻3号「第四紀後期の気候変動と地球システムの挙動－その原因とメカニズムの解明にむけて」特集号の編集状況が報告された（総説7、趣旨説明1、討論1）。同号の発送時期について今後調整することとした。
- 4) 著作権譲渡依頼告知への応答状況が報告された。

#### (4) 行事

- 1) 日本地球惑星科学連合 2009 年連合大会プログラムが確定した。
- 2) 2009 年大会案内第 2 報 (概要、巡検日程、シンポジウム概要、普及講演会概要) 及び発表申込・講演要旨提出方法が決定した。
- (5) 広報
  - 1) 第四紀通信 16 巻 2 号の編集が完了予定で、郵送版配布準備及び電子版ホームページ掲載準備が進行中と報告された。
  - 2) ホームページの管理・更新状況及びメーリングリスト (jaqua、幹事会、評議員会) の管理・運用状況が報告された。
- (6) 50 周年記念 CD 出版物関連  
「デジタルブック最新第四紀学」の ISBN 番号取得について、経緯をメーリングリストで周知することとした。
- (7) Island Arc の編集顧問推薦  
熊井久雄氏に代わる編集顧問として、Island Arc 事務局に鈴木毅彦氏を推薦し、了承された。
- (8) 日本学術会議地球惑星科学委員会 INQUA 分科会
  - 1) 2015 年 INQUA 大会日本招致の日程案が報告された。
  - 2) INQUA テフラ・フォーカスグループ国際会議・巡検 (2010 年九州南部)、インドネシアの加盟、ベルン大会日程が報告された。

## 2. 審議事項

- (1) 著作物使用許諾申請  
2 件を承諾した。またホームページに掲載されている園山俊二氏イラストの利用許諾については、経緯等を調査のうえ幹事会で再検討することとした。
- (2) 学会宛郵送物等の管理
  - 1) 資料価値のあるニュースレター、紀要、報告書、資料 (CD 等含む) については、庶務幹事や他の幹事の希望者で引き取り、他は大会時等に会員に引き取ってもらうこととした。
  - 2) 学会 (会長) 宛各種文書等について、保管を要するものは学会事務局で 3 年間をめどに保管することとした。
  - 3) その他は担当幹事が適宜判断して処分することとした。
- (3) 学会賞等の英文表記  
他学会を参考とした庶務幹事私案を検討した。検討結果は幹事会メーリングリスト等で周知し、さらに検討することとした。
- (4) 編集関連
  - 1) 学会賞・学術賞等受賞者への投稿依頼  
受賞対象研究を第四紀研究に投稿してもらえるよう、働きかけることとした。
  - 2) 訂正を含む論文の電子アーカイブ化について J-Stage に照会することとした。
- (5) 評議員会・講演会・シンポジウム
  - 1) 評議員会、学会賞等受賞者講演会、研究委員会シンポジウムを 2009 年 6 月 27 日に日本大学文理学部で開催することを確認した。幹事会と評議員会 (学会賞等の受賞者決定のみ議題) を午前、学会賞・学術賞講演会とシンポジウム (地球温暖化と環境防災) を午後で開催する。
  - 2) 幹事会を同時開催するか否かについて次回幹

- 事会で判断することとした。
  - 3) 学会賞等講演会とシンポジウムの要旨集、案内ちらし (ポスター) は担当を決め、別々に作成することとした。
  - 4) 評議員へは 4 月 20 日頃を目処に案内を送付することとした。
  - (6) 学会賞受賞者選考委員会及び論文賞受賞者選考委員会
    - 1) 推薦締切後に両選考委員会を発足させることとした (担当: 幹事長)。
    - 2) メーリングリストで推薦依頼を再案内することとした。
  - (7) 会則改定案の検討  
弁護士への相談を 4 月に行えるよう調整することにした (担当: 副会長、幹事長、庶務幹事)。
  - (8) 第四紀通信  
次号の原稿案を検討した。
- 次回幹事会: 5 月 17 日 東京大学 (本郷) で開催予定。

## ◆日本第四紀学会第 1 回選挙管理委員会議事録 (案)

日時: 平成 21 年 3 月 21 日 (土) 13:00 ~ 16:00  
 場所: 千葉大学松戸キャンパス D 棟 D-305 室  
 出席者: 小松原純子、近藤玲介、佐々木由香、菅沼悠介、谷口 薫、宮地良典各委員  
 百原 新 (庶務幹事)、中野利洋 (日本第四紀学会事務局)

1. 概要説明  
選挙管理委員会の仕事内容と大まかな日程について庶務幹事の百原と事務局の中野より説明があった。
2. 委員長選出  
役員選挙規程 第 8 条に基づき委員の互選により宮地良典委員を委員長に選出した。
3. 選挙日程の確定  
2009-2010 年度の評議員および役員選挙の日程を以下のように決定した。  
 2009 年 4 月 17 日 (金) 評議員選挙投票用紙発送  
 2009 年 5 月 21 日 (木) 評議員選挙投票締切 (当日必着)  
 2009 年 5 月 23 日 (土) 第 2 回選挙管理委員会 (評議員選挙開票、役員選挙の会告と投票用紙の作成)  
 2009 年 5 月 25 日 (月) 評議員への委嘱状発送  
 2009 年 6 月 1 日 (月) 役員選挙投票用紙発送  
 2009 年 6 月 18 日 (木) 役員選挙投票締切 (当日必着)  
 2009 年 6 月 20 日 (土) 第 3 回選挙管理委員会 (役員選挙開票、答申作成)  
 2009 年 6 月 22 日 (月) 会長、副会長、会計監査、幹事への委嘱状発送
4. 被選挙人名簿確認  
会則 9 条および 10 条により、被選挙権を有し

ない正会員を確認した。会長経験者は、熊井久雄(地質)、町田 洋(地理)。連続5選評議員は、岩田修二(地理)小泉武栄(地理)、鈴木毅彦(地理)、河村善也(古生)、大場忠道(地化)、小池裕子(人類)の以上8名である。被選挙人名簿からこれらの会長経験者および連続5選評議員を削除して、被選挙人名簿も原稿を作成した。

#### 5. 分野別評議員数の決定

2009年2月1日現在の選挙人名簿に基づき、専門分野別に会員数を算定した。地質学578、地理学404、古生物学114、動物学12、植物学37、土壌学27、人類学15、考古学176、地球物理学28、地球化学30、工学27である。専門分野別会員数に基づき、選挙規程第14条および16条により分野別評議員数は、地質学8、地理学7、古生物学4、動物学2、植物学2、土壌学2、人類学2、考古学4、地球物理学2、地球化学2、工学2および共通分野5の計42名と決定した。

#### 6. 投票用紙と会告の作成

前回の評議員選挙の実施に関する会告をもとに原稿を作成した。前回の答申で、投票用紙が封筒に入りきらず折って入れるためにミシン目で切れることが問題になっていた。この対策として投票用紙をA4サイズに変更し、返信用封筒は長形3号とすることとした。また、送付用の封筒は選挙人名簿・投票用紙にあった角形2号とすることとした。投票率向上と無効票減少のために「空欄が

あっても記名分の投票は有効です。すべての欄を埋める必要はありません。」と「投票用紙に署名捺印した場合はすべて無効です。」の2文を投票用紙上部に入れることとした。

会告については、選挙の目的を明らかにするため冒頭に「会則9条、第10条および役員選挙規程に基づき、2009-2010年度の評議員選挙を行います。評議員は各分野を代表し、評議委員会に出席して本学会の運営に貢献していただく重要な役職です。下記の各項に従って投票をお願いします。」を付記することとした。会告4.に投票用紙にあわせ「投票は同封の投票用紙を使用してください。投票用紙に本学会印のないもの、投票用紙のミシン目が切り離されたものおよび署名捺印されたものは無効です。」に変更した。

7. 次回委員会の開催日の確認、アルバイトの確保  
前回同様7名程度のアルバイトを確保する。次回委員会開催大学においてアルバイトを募集する。

#### 8. その他

学会のメーリングリストを通じて、投票の呼びかけを行うことにした。また、地球惑星連合大会の関連セッションにおいても投票の呼びかけをしていただくよう座長にお願いすることとした。

#### 9. 次回委員会の開催日

日時：2009年5月23日(土) 10:00～  
場所：日本大学または千葉大学(後日メールにて確定)

## ◆学生会員の皆さまへ「学生会員継続届」提出のお願い

2000年度から学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届」として提出していただくことになっています。

2009年度(2009年8月1日～2010年7月31日)を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙(様式自由・ワープロ使用)に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教員氏名を明記のうえ、指導教員の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを2009年6月30日(火)までに日本第四紀学会事務局まで郵送してください。本届が提出されない場合は、2009年度第1回目会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意下さい。

なお、2008年度から学生会員として入会された方も提出願います。

また、日本学術振興会特別研究員(PD)や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合先・送付先：〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町519番地  
洛陽ビル3階 日本第四紀学会事務局  
E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com  
TEL：03-5291-6231 / FAX：03-5291-2176

提出方法：郵便に限ります。

**◆平成 21 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞  
(横山祐典会員)**

本会の横山祐典会員（東京大学）が平成 21 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞されました。若手科学者賞は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた 40 歳未満の若手研究者を対象にしています。本学会の 2008 年度学術賞に続く、受賞になります。日本第四紀学会では、別記のように 2008 年度学会賞・学術賞の第 2 回講演会を 6 月 27 日に日本大学文理学部において予定していますので、是非、ご参加ください。

平成 21 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞 受賞タイトル  
「過去の海水準変動の高時間解像度復元と変動メカニズムの研究」

東京大学海洋研究所 准教授 横山祐典  
受賞日 2009 年 4 月 14 日

詳細については以下をご参照ください。  
文部科学省 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/21/04/1259919.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/04/1259919.htm)

## ◆ AsQUA(Quaternary Research of Asia) 国際会議の案内 [ 第 2 報 ]

International Symposium on Paleoanthropology in Commemoration of  
the 80<sup>th</sup> Anniversary of the Discovery of the First Skull of Peking Man and  
the First Asian Conference on Quaternary Research  
Beijing, 19-23 October, 2009

### SECOND CIRCULAR

In commemoration of the 80<sup>th</sup> anniversary of the discovery of the first skull of Peking Man, the International Symposium on Paleoanthropology and the First Conference on Quaternary Research of Asia will be jointly held in Beijing, 19-23 October, 2009. A special session on “Suyanggae and Her Neighbors” and the Asian Paleolithic Association’s annual meeting will be concurrently held during the symposium. The organizing committee warmly invites colleagues and friends around the world to join the symposium. The theme of the symposium is: Human Evolution and Environment Changes. Both oral and poster contributions are welcome. Topics of scientific sessions planned are as follows:

1. Origin and evolution of humans
  - 1.1 Origin of early hominids
  - 1.2 Origin of modern humans
  - 1.3 Aspects of human evolution
2. Early human Behaviors and cultures
  - 2.1 New discoveries of Paleolithic in Asia
  - 2.2 Migration and interaction of early humans between the East and the West
  - 2.3 Interdisciplinary study of Paleolithic archaeology
3. Changes in geological environment and human activities in Asia
  - 3.1 Environmental background for the evolution of early hominids
  - 3.2 Environmental change and development of civilization
  - 3.3 Recent human activity and its environmental effects

#### **Sponsors:**

The Institute of Vertebrate Paleontology and Paleoanthropology,  
Chinese Academy of Sciences  
Chinese Association for Quaternary Research  
The Institute of Geology and Geophysics, Chinese Academy of Sciences

#### **Co-Organizer:**

The Zhoukoudian Museum of Peking Man

#### **Financial Supports:**

National Natural Sciences Foundation of China  
Chinese Academy of Sciences

#### **Organizing Committee:**

Chairman: Ding Zhongli  
Vice Chairmen: Wu Xinzhi, Liu Jiaqi, Zhu Rixiang, Gao Xing

Members: Chai Yucheng, Ding Zhongli, Fu Bojie, Gao Xing, Guo Zhengtang, Han Jiamao, Hou Yamei, Jin Changzhu, Liu Jiaqi, Liu Wu, Wu Xinzhi, Xiao Jule, Wang Youping, Yao Yupeng, Zhou Liping, Zhou Shaoping, Zhu Rixiang, A. Derevianko, H. Kumai, Y. Lavrushin, Y.J. Lee, K. Okumura, Y.A. Park, Y. Saito, A.K. Singhvi, I. Takashi, A. Velichko, K.Y. Wei

Secretariat: Xiao Jule, Zhang Yi, Cui Ning, Che Jianguo

## Arrangements of the Symposium

### 1. Schedule

19 October, 2009: Registration, Xiyuan Hotel, Beijing

20 October, 2009: Opening ceremony and key-note speeches

21 October, 2009: Oral presentations panels

22 October, 2009: Morning: oral presentations panels

Afternoon: poster sessions

23 October, 2009: Mid-conference excursion (the Peking Man Site at Zhoukoudian) and closing ceremony

### 2. Accommodation

The symposium sessions will take place at Xiyuan Hotel (<http://www.xiyuanhotel.com.cn/web/english/index.aspx>), which is across street of the IVPP. The official conference hotel for accommodation is the Xiyuan Hotel, and a special rate will be available for the reservation made before the start of the conference. Should you have your own selection of hotels nearby, we would be happy to provide information but offer no reservation.

A. The Xiyuan Hotel wing building (also known as Xiyuan Hotel Villas)

Single Room RMB 258yuan/day (about \$ 40US per day)

Standard Room A (one bed) RMB 400yuan/day (about \$60US per day)

Standard Room B (two beds) RMB 400yuan/day (about \$60US per day)

Deluxe Room A (one bed) RMB 458yuan/day (about \$70US per day)

Deluxe Room B (two beds) RMB 458yuan/day (about \$70US per day)

B. The Xiyuan Hotel main building

Standard Room A (one bed) RMB 610yuan/day (bout \$90US per day)

Standard Room B (two beds) RMB 610yuan/day (bout \$90US per day)

Please specify your choice in the registration form.

### 3. Registration

Registration fee is \$400US for professional participants, \$250US for students and accompanying persons. The registration fee covers the symposium materials (for professional and student participants), banquet, meals (except the supper on October 22) and mid-conference excursion.

Reduced registration fee is offered for early payment: \$300US for professional participants and \$200US for students and accompanying persons, which should be made before **31 August 2009**. To make the advanced payments, please use the Bank Wire Transfer. The bank information shows below:

Bank Name: Bank of China Beijing New Century Hotel Sub-Branch  
Add: No.6 South Road Capital Gymnasium, Hai Dian District, Beijing 100044, China  
SWIFT Code: BKCHCNBJ110  
Account Name: Cui Ning  
Account Number: 4080300-0188-042991-8

Please kindly fill in the form of the SECOND CIRCULAR REPLY and return it, before **10 July 2009**, to the secretariat via email ([kjc\(at\)ivpp.ac.cn](mailto:kjc(at)ivpp.ac.cn)), fax (+86-10-68337001) or normal post to the address below:

Research Office  
Institute of Vertebrate Paleontology and Paleoanthropology  
Xiwai Street 142, Beijing 100044, China

#### 4. Field Trips

Two routes of post-symposium field excursion are planned.

**Route 1** (3 days, RMB2000yuan or \$300US/person): Nihewan Paleolithic Site (Yangyuan county, Hebei), Xujiayao Paleolithic Site (Yanggao county, Datong, Shanxi), the Huayan Monastery of Datong and the world cultural heritage-Yungang Grottoes (Datong, Shanxi)

24 Oct (Day 1): Beijing-Yangyuan-Nihewan (overnight stay at Yangyuan)

25 Oct (Day 2): Yangyuan-Xujiayao-Datong (overnight stay at Datong)

26 Oct (Day 3): The Huayan Monastery of Datong-Yungang Grottoes-Beijing

The field trip fee includes transportation during the field trip, 2 nights lodging and 3 days meals, and tickets to the sightseeing spots.

**Route 2** (5 days, RMB5000yuan or \$750US/person): Guangxi Bose Basin Paleolithic sites, Guangxi Bubing Basin Quaternary fossil locations, Gaolingpo Paleolithic site, Chongzuo Cave Biota and the UNESCO world heritage-the Rock Painting of the Mountain Huashan

24 Oct (Day 1): Beijing to Nanning by Air; Nanning to Baise by bus  
(overnight stay at Baise)

25 Oct (Day 2): Morning, visit Fengshudao paleolithic site;  
Afternoon, visit the Youjiang Ethnic Museum and the Deng Xiaoping Memorial Hall  
(overnight stay at Baise)

26 Oct (Day 3): Morning, visit MehuiDong Cave site in Bubing Basin;  
Afternoon, visit Gaolingpo paleolithic site; then move to Chongzuo;  
Evening, a tour of Quaternary fossil collections  
(overnight stay at Chongzuo Ecological Park)

27 Oct (Day 4): Morning, visit Chongzuo cave fossil localities;  
Afternoon, visit the UNESCO world heritage-the Rock Painting of the Mountain Huashan.

Evening, watch the white-headed langur (*Presbytis leucocephalus*)  
(overnight stay at Chongzuo Ecological Park)

28 Oct (Day 5): Chongzuo to Nanning Airport, departure

The field trip fee includes Beijing-Nanning round-trip airfare, transportation during the field trip, 4 nights lodging and meals, and tickets to the sightseeing spots. If you plan not to come back to Beijing after the end of the tour, you will get the refund for the one-way airfare.

Please note that the reservation for the field trips will be on the first come first service basis due to the limited seats available. However, if the reservation is less than 8 persons per trip, we may have to cancel the field trip.

### **5. Call for Abstracts**

All abstracts (in English and within 1 A4 page) should be submitted no later than **10 July 2009**. The abstract should include: title, authors' names (capitalized family names), the institutions and addresses, email address of the corresponding author and main-text of abstracts (see the example below). The abstract should be submitted 1.5 spaced in 11-point, Times New Roman font, with 2.5 cm margins top, left and right, 2.0 cm bottom margin. Figures are not permitted. The abstract should be created in, or converted to, Microsoft Word 2000 or 2003.

### **6. Language**

The official languages of the symposium are English and Chinese.

### **7. Presenter Audio-Visual Instructions and Requirements**

All presentations must be loaded on the CONFERENCE COMPUTER the day before the presentation.

All meeting rooms will be equipped with

>1 Windows computer, with CD/DVD drive, PC-XP with Office 2000/ PowerPoint 2000 or Office 2003/ PowerPoint 2003.

>1 or 2 screens, depending on room size, LCD projectors, laser pointer and microphone. You will not be permitted to connect your own computer to the LCD projector. Bring your presentation on CD or memory stick and bring a backup copy. Your presentation must be in a format that is compatible with the equipment listed above.

### **8. Guidelines for Poster**

Posters are on display throughout the symposium and an afternoon session will be allocated for poster viewing.

The standard poster size is 0.9m wide x 1.2m high. Smaller, landscaped-size posters are acceptable.

### **9. Weather**

Beijing's temperature in October is about 13 degree C (day) – 4 degree C (night). Remember to check the weather before your travel. Beijing adopts the GMT+8 Time Zone.

### **10. Key Dates**

Second circular reply and abstract submission **before 10 July 2009**

Early payment with reduced fee **before 31 August 2009**

### **11. Conference Website**

Please regularly check the following website for information update:

[http://www.ivpp.ac.cn/en/peking\\_conference/peking\\_conference.html](http://www.ivpp.ac.cn/en/peking_conference/peking_conference.html)

**Preliminary Report on the Excavations of Shuidonggou Localities 3,4,5 in Ningxia**

WANG Huimin<sup>1</sup>, PEI Shuwen<sup>2</sup>, MA Xiaoling<sup>1</sup>, FENG Xingwu<sup>2</sup>

1. *Institute of Archeology of Ningxia Hui Autonomous Region, Yinchuan 750001;*

2. *Institute of Vertebrate Paleontology and Paleoanthropology, Chinese Academy of Sciences Beijing 100044*

hmwang(at)gmail.com

The Localities 3, 4 and 5, which distributed in the southwest margin of the Shuidonggou basin, are the important localities of Shuidonggou site. These localities were not formally excavated since discovered in 1923. The three localities were excavated from August to October 2004, as a salvage archeological project due to the construction of the diversion channel of Ningdong Heavy Chemical Base. The excavations exposed an area of about 80 m<sup>2</sup>. More than thousand of stone artifacts and ostrich egg fragments were excavated and collected from the three localities.

The upper cultural layer and surface lithic assemblage: a total of 928 pieces (479 from surface and 347 from layer ① of locality 4; 102 from upper layer and surface of localities 3,5) of stone artifacts were excavated and collected from the localities 3,4,and 5. More than 30% of blade and high percent of chert as the raw material is the main character. Preliminary analysis of retouched tools and technique as well as the stage of fossilization of ostrich egg fragments and extinction age of the ostrich in the region indicate that the lithic assemblage stage of localities 3,4 and 5 can be put to the end Upper Paleolithic to early Lower Neolithic of China.

The lower cultural layer lithic assemblage: about 85 pieces of stone artifacts were excavated from the layer ⑥ of the three localities, which seems more primitive in the cultural feature than the upper cultural layer by analyzing the type, morphology and technique of the stone artifacts. About 61.5% of the raw materials were dolomite, which shows similar to the Shuidonggou cultural of Upper Paleolithic in North China. Cores, flakes, blade and biface retouched tools are the main classes without typical microlith and levallois-style cores. The principal technique is direct hammer percussion with commonly core preparation, which the bipolar and soft-hammer percussion are seldom flaking technique.

**SECOND CIRCULAR REPLY FORM**

Please Complete (Type or print clearly)

Family Name:                      Given Name:                      Country:

Gender:                              Title:

Institution:

Mailing Address:

Telephone:                      Fax:                              Email:

Please insert **YES** or **NO** before:

\_\_\_\_\_ I want to receive the Final Circular

\_\_\_\_\_ I plan to attend the symposium

\_\_\_\_\_ I plan to give an oral presentation

(If yes, provide the title of the presentation here)

---

\_\_\_\_\_ I plan to give a poster presentation

\_\_\_\_\_ I plan to join post-symposium excursion ONE

\_\_\_\_\_ I plan to join post-symposium excursion TWO

My presentation fits the following topic (insert **YES** *after* the session number below)

1. 1    1. 2    1. 3    2. 1    2. 2    2. 3    3. 1    3. 2    3. 3

Hotel Reservation (insert **YES** *after* your choice)

Xiyuan Hotel wing building

Single Room    Standard Room A (one bed)    Standard Room B (two beds)

Deluxe Room A (one bed)    Deluxe Room B (two beds)

Xiyuan Hotel main building

Standard Room A (one bed)    Standard Room B (two beds)

Do you need a formal invitation form for your visa application?

If yes, please inform us the way you want to receive it (by fax, scanned and sent by e-mail, or original one sent by normal post).

## ◆ Sir Nicholas Shackleton Medal 候補者の募集

INQUA are pleased to announce that Nominations are invited for the Sir Nicholas Shackleton Medal, which is awarded to an early-career scientist, who will normally be under 35 years of age, working in any branch of Quaternary science.

The process for nomination and evaluation is as follows.

### Nomination

- # In principle, any scientist working in the field of Quaternary sciences may propose an appropriate candidate for the Sir Nicholas Shackleton Medal, but see the nomination form on the INQUA website.
- # Proposals should include a summary and a short personal statement in support of the candidate, the curriculum vitae and list of publications of the nominee, and two letters of recommendation (see details on the nomination form).
- # Proposals should be submitted electronically to both the Secretary-General of INQUA and the Chair of the Award Committee.
- # All nominations will be acknowledged, and nominators are advised to request such confirmation if it is not received.
- # The deadline for the current round is 31st July 2009 and no late proposals will be considered.

### Evaluation

- # Proposals will be forwarded to an Evaluation Group composed of eminent Quaternary scientists, who will consider each case in confidence and may seek further information if it is deemed necessary.
- # After completion of the evaluation, the Chairperson of the Evaluation Group will send the recommendation of this Group, together with a one page summary and a two-line citation of the selected candidate, to the Secretary-General of INQUA. The Secretary General will prepare and forward the necessary documents and citations to the Executive Committee members for final approval.
- # The President of INQUA will then inform the medalist of the award by the end of November 2009.
- # The medalist will be invited to the next General Assembly of the Union, where the medal will be presented.

Closing date for receipt of nominations is 31st July 2009.

A nomination form is available on the INQUA website at: <http://www.inqua.tcd.ie/> or if that fails by e-mailing me directly ([pcxon\(at\)tcd.ie](mailto:pcxon(at)tcd.ie)).

with best wishes

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。  
広報幹事：荻谷愛彦 (kariya (at)isc.senshu-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。  
第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 荻谷愛彦  
〒 214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 電話：044-911-1014 Fax：044-900-7814

広報委員：越後智雄・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局  
〒 162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 519 番地 洛陽ビル 3 階  
E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-52912176